

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103270		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・不動院		
所在地	〒732-0068 広島市東区牛田新町三丁目5番21号 (電話) (082) 511-3281		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470103270&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年12月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の方々が自分らしくまた安心して日々を過ごせるように援助していくこと。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームひなたぼっこ不動院は、法人の理念の下、「居心地がよく、このホームで暮らせて良かった」を目標に、全職員で、入居者一人ひとりの思いや希望を聴き・添う個別ケアに取り組んでいる。職員は入居者と一緒におしゃべりを楽しみ、毎日が仲良く笑顔で生活できるように心がけており、毎月の便りで担当職員が入居者一人ひとりの様子を家族へ繋いでいる。家族の来訪が少ない時には、電話で様子を伝えたり、来訪を呼び掛けたりして、入居者と家族との絆の継続支援に努力している。また、入居者の出来ることを行ってもらうことが大切と考え、食材の買出し、食事の準備・後片付けなど職員と一緒に作業を行っており、職員は適切な声かけや温かい雰囲気づくりに努めている。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者の方々に「自分らしく」をモットーに安全、安心して過ごしていただく事を考えケアを行なっている。	法人の基本理念の下に、事業所独自の理念を掲げている。毎月開催する職員会議で、理念を確認・共有して、日々の実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	交流の機会はなかなか増やせていないが、近所の方との挨拶やちょっとした立ち話をふまえて、交流する機会を増やそうと努力している。	この事業所は、閑静な高級住宅地の中にあり、日常の散歩の中で挨拶や会話をし、交流している。また、地域の一員として、入居者の体調に合わせて、近くの神社の掃除を自主的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、具体的な取り組みを行なうには至っていないが、今後、関係機関と連携を取りながら、地域の方との関係づくり、強化に向けて働きかけを行なっていこうと考えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進委員会を開き、事業内容、サービス内容の報告、相談を行なっている。また、助言していただくなど意見交換を行い、次につなげるように心掛けている。	毎回、家族や民生委員・地域包括支援センターの職員が参加し、活発な意見交換が行われており、出された意見をケアサービスに活かしている。その中で消防訓練を地域住民と共に行いたいと提案し、メンバーの助言・協力を頂き実施することが出来た。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	連絡を密に取ってはいないが、運営推進会議など報告は行なっている。	事業所での困難事例について、地域包括支援センターに相談し、運営推進会議を通じてアドバイスを受ける等日頃から協力関係が出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日々の申し送りや会議などで、職員一人一人が行っているケアについて振り返り、自覚していない身体拘束が行なわれていないか確認している。</p>	<p>職員は、外部研修や事業所内の勉強会で身体拘束に関し正しく理解しており、ミーティングで振り返り・確認をしながら、抑制しないケアの実践に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>申し送りや職員会議、カンファレンスなどでケアについて協議し、意識統一に心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>後見人制度については、改めて学ぶ機会を設けるに至っていないが、今後、勉強会などを開き、取り組んでいきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書を見ながら、一つ一つ丁寧に説明し、ご家族に納得していただきながら、契約を行なうようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>定期的に各家族様にホーム便りを送付したり、電話で連絡を取るなどし、確認しながらケアに当たっている。</p>	<p>家族会や家族の来訪時に、職員が積極的に声掛けをし、要望を聞くようにしている。定期的に「ホーム便り」を送付し、また、訪問が遠のいている家族には、電話で連絡をとるなどし、意見を聞くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	個別面談、ミーティング、業務の間に意見提案を聞き、反映できるよう取り組んでいる。	申し送りやミーティングで出された意見を、ホームの運営に反映させるようにしている。個別面談や業務の中でも、職員が意見や提案が出来るよう、日頃からコミュニケーションを密にしている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	面談にて職員の意見を聞く機会を設けている。職員の資格取得を支援している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	なるべく誰もが外部研修に参加できる勤務体制を整えるよう考慮している。また、毎月の職員会議の機会に相互の内部研修を行なうよう支持している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	他事業所との交流や意見交換、勉強会などに参加できるように、勤務体制のうえで配慮し、サービスの見直しの機会を得るようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	入居を決める前に体験入居を行い、本人がどんな不安や困っていることがあるかを把握し、安心を確保する為の関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の思いや不安をしっかりと聞きながら、本人にとってどのようなケアを行なっていくか、相談し、また状態の報告を細かく行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の思いをしっかりと聞きながらその状態、状況に添ったサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人が落ち着ける空間作り、環境作りをする事と、しっかりとコミュニケーションを図り、信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族と職員が情報交換し、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のご近所だった方などの来訪などあり、面会時間を定めず、いつでも訪問できるようにしている。	面会時間を決めず「いつでも、どなたでも、大歓迎」の姿勢で、職員は笑顔での支援に努めている。入居者の昔馴染みの方が菓子折りを持って訪問されたが、息子の様に度々来訪し、他の入居者や職員とも仲良くなっているという現実があった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様がお互いのできるレクリエーションを考え、工夫し、親交を深められるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要であれば極力相談にのるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で、本人の希望や訴えをしっかりと聞き、職員会議やカンファレンスを行い、検討している。	食事や日常的な会話の中から入居者の意向を把握する様にしている。誕生日には入居者の希望の品を献立に加え、時には外食することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の協力のもとに、フェイスシートを作成し、それをもとに状態、状況を把握した上で、ケアを提供するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員会議や申し送り、カンファレンスなど情報共有し、入居者の現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族に相談し、意見を伺うとともに、カンファレンスで職員の意見を聞き、ケアプランを作成している。でき上がったものについて、家族に説明し了解を得ている。</p>	<p>入居者一人ひとりに担当者を決め、日々のケア記録などを基に、本人、家族の意見も踏まえたケアプランの原案を作成し、職員全員で話し合いを行い、最終的なケアプランを作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録、伝達ノート、会議録などを利用し、情報共有しケアの実践につなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>通院支援や外出希望など、ニーズにこたえられるように対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議などに民生委員の方や、地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、情報交換をしたり、アドバイスをいただいたりと、協力関係を築くようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月1回、協力医の往診、月2回の訪問看護師の訪問があり、希望があれば他の受診も家族、医師、本人、ケアスタッフと協議し行なっている。</p>	<p>協力医の月1回の往診、看護師の月2回の訪問もあり、入居者の状況に応じた柔軟な対応がなされている。かかりつけ医の受診希望の入居者については、医師や家族と連携し対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回看護師の訪問があり、入居者の状態、状況を報告し、健康チェックしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時病院スタッフの方と治療中の状態、状況の様子や、また、退院になった場合の注意点など、細かく相談するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現時点では、終末期対応は難しいと判断しており、ホームとしては積極的に取り組んでいない。	入居時に、入居者が重度化した場合の家族の意向を確認している。過去に取り組みの事例はあるが、何よりも家族の協力が第一で、医療的な面と、ホームの態勢も考慮して、現時点では積極的な取り組みはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生マニュアルを用いて、職員全員に周知徹底しているが、現在、定期的な訓練、学習の機会を持っていないため、今後会議や勉強会、仕事の合間などを活用し、実践で使える力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の方の参加も得て、年に1度の消防訓練を実施している。また火災時、災害時の避難誘導について、全職員でシュミレートしながら、避難誘導マニュアルを作成する予定である。	年に1回は、消防署職員立会いの下に、地域住民と共に避難訓練を行い、消防職員から実地指導やアドバイスを頂いている。	万が一に備え、避難誘導マニュアルの作成と町内会への協力要請を運営推進会議へ働きかける等、避難体制の構築をして頂きたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応ができるよう心掛けている。	職員会議や接遇研修、日々のサービス提供場面においても、誇りやプライバシーを傷つけない言葉掛けや対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様との会話の中で希望を聞きだし、できるだけ希望に添えるよう支援している。職員のみならず、家族の方にも協力していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生きがいを見つけ出し穏やかな生活ができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思で衣類などを選ばれる入居者様についてはその意思を最大限尊重している。選ぶことが困難な入居様には職員が支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様ができることを一緒に探し、食事作りや、準備、片付けを毎日している。	入居者と職員と一緒に食材の買出し、調理、後片付け等を行っている。職員は、おかずを作る人、野菜の皮をむく人など入居者一人ひとりの役割発揮を支援し、食事は会話をしながら、楽しく、ゆつくと食べる雰囲気づくりに配慮がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取、栄養バランスについては、記録表や献立表に記入している。水分摂取についても、食事時、おやつ時、入浴後など十分に摂っていただくように声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。毎週水曜日に、歯科往診があり、口腔状態の確認や、より良い口腔ケアになるように働きかけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレに行くことを基本とし、声掛けや援助の必要な方へは誘導や介助を行なっている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやトイレへの誘導を自然体で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に食物繊維の多い野菜を提供すると共に、散歩や体操などを行ない、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望に添ってはいないが本人のペースで、リラックスできる入浴を目的として行なっている。また、毎日の入浴希望があれば入浴していただいている。	「気持ちの良い・楽しめる入浴」を目指して、毎日の入浴や入浴時間の希望に出来るだけ沿うように対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	就寝時間など一人ひとりに合わせ対応し、無理なく生活できるように支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬の説明書を保管し、職員が薬の情報について把握できるようにしている。また、確実に服用していただくように、服薬の前に職員が二重の確認をし服薬介助している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	入居者の方々のレベルに合わせ、また、得意な事、できることを支援し、感謝の気持ちを伝えている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	希望に添えてはいないが、1ヶ月に2回以上外へ出かけるレクリエーションを企画し実施している。買い物や散歩は日常的に行なっている。	出来るだけ外出するようにし、食材の買い物にも、ほぼ毎日入居者と一緒に行くようにしている。特に、このホームに隣接して歴史のある神社、寺院があり、その境内が日々の散歩の場となっている。また、月2回程度はドライブや外食をしている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	お金の自己管理は、ご自分で管理できる方や、お金を持っていないと落ち着かない方など、家族の同意を得た一部の入居者のみで、お金の管理が困難な入居者様については、ホームが立替で行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望により行なっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の方々と一緒に毎月の季節に応じた壁画や折り紙で作成するなどし、できあがったものをリビングや廊下に貼りつけて飾っている。	リビングやロビーには、椅子やソファが置かれ、入居者が井戸端会議をしたり、ひなたぼっこを楽しむ雰囲気作りが出来ている。また、壁には入居者と職員で作製された作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングや廊下、玄関前などにイスやソファを設置し、入居者様が気軽に使用できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用されていたもの、馴染みのもの、親しみあるものを家族の方に持ってきていただき、居室などに飾っている。	今までの馴染みの品・思い出の品等を持ち込んで、過ごしやすい空間となるように色々な工夫がされている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の出入り口には表札をかけている。リビングやトイレなどにも分かりやすく目に見て判断できるようにし、入居者の方々の残存機能を生かし、できることを積極的に行なっていただけるよう、声掛け、見守りを行なっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・不動院

作成日 平成23年 1月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防、避難訓練について、十分に周知、徹底できていない。	全職員にマニュアルに沿った消防、避難体制を周知、徹底しながら行なうようにする。	火災時、災害時の非難誘導など、全職員でシュミレートしながら、冷静な対応ができる体制を作る。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。